

【沖縄報告 2013・3・11】
映画『ひまわり』～沖縄は忘れない、あの日の空を～

共同代表 弁護士 池宮城紀夫

今、沖縄県内をはじめ全国で、映画『ひまわり』の自主上映が展開されて好評を博しています。映画の内容は、1959年6月30日、突然、米軍のジェット戦闘機が沖縄本島中部の石川市（現うるま市）の住宅街に墜落し、宮森小学校の教室に炎上しながら激突し、住民6名、学童12名の尊い命を奪い、重軽傷児童154名、住民56名の大惨事をテーマにした映画です。

沖縄住民の4人に1人が犠牲になった沖縄戦から生きのびた住民は、戦後の復興に向けて一生懸命働いていた最中に、この事件は、戦場の地獄の再現でした。

沖縄の戦後は、27年間米軍に占領された植民地統治でした。日本は、サンフランシスコ講和条約によって、占領から独立しましたが、その独立は、昭和天皇が沖縄と奄美を米軍の占領に委ねることと引き替えになされたことを知っている日本人は多くはいないでしょう。

1972年に沖縄の施政権は日本国へ返還されましたが、その後も、日本国は、米軍に沖縄を提供し続け、日本国内の米軍専用基地の74パーセントの面積を沖縄に押し付けています。（編集部注：本土には全国全米軍基地面積の77.3%、全国全基地数の81.9%が存在します）その結果、米兵による少女暴行事件、ジェット機墜落事件、国際大学へのヘリ墜落事件、ひき逃げ事件、等々、米兵らによる事件事故は日常茶飯事です。

54年前の宮森小学校の大惨事は、決して過去の事件ではありません。嘉手納基地と普天間基地の爆音被害、最近では危険極まりない「オスプレイ」の普天間配備と全国展開、米軍基地の被害は沖縄だけの問題でないことを訴える内容となっている映画です。

主人公山城良太には、誠実で思慮深く洪

みのある演技で定評のある長塚京三氏、基地問題で苦しむ女子大学生には、本年4月から放映されるNHKの朝ドラのヒロイン能年玲奈さんが抜擢されています。その役者を取り巻くのが沖縄のベテランの演劇人たちで迫真の演技を演じています。

監督は新進気鋭の及川善弘氏です。監督の言葉です「映画『ひまわり』のラストシーンは、スクリーンいっぱいに咲き誇るひまわり畑です。群生するひまわりたちはそれぞれに頭を上げ、眩しい太陽から少しも眼を逸らしません。彼らは言葉こそ持ちませんが、その姿は私たちに強く語りかけてきます。願う明日があるのなら、決して諦めないで、と。高い壁に撥ね返されても、背中を押す誰かがいることを信じて、と。ひまわりたちのその声を、私なりに受け止め、この映画の中に刻みつけたつもりです。多くの観客の方々に、いつまでも語り継いで貰える作品になればと強く願っています。」

既に沖縄県内をはじめ全国各地で上映実行委員会などによる上映会が開催されており、観客の皆さんから絶賛の声をいただいています。及川監督の想いが結実した感動深い映画になっています。私は、映画『ひまわり』を成功させる沖縄県民の会の副会長として製作資金集めにかかわった者として、是非推奨したい映画です。全国での上映日程は、映画『ひまわり』でインターネットにアクセスできます。

【編集後記】 米軍基地をなくす草の根運動は、私たちの祖国・郷土に違憲の外国軍など1基地たりとも許さない、という覚悟で臨んでいます。憲法力と国民の団結でのみ祖国日本の土と人は守れるのです。沖縄・本土の団結は国民の団結のうち最も重要な団結の一つです。超党派の団結もその一つです。

時あたかも、祖国を米国に売り渡した、「基地提供条約」発効61回目の屈辱の日4月28日「日本・沖縄デー」が近づいています。「憲法力と団結力で自分の国は自分で守ろう」と心から呼びかけたい。TPPも原発も何より基地も、従属と売国、反国民の「政府の行為」（憲法前文）によるからです。（H）